

暴露本を執筆中？ 元特捜部長と大坪弘道の裏音声

大阪地検特捜部の主任検事(当時)による証拠品の改ざんを隠蔽したとされる事件で、控訴審でも有罪判決を受けた元特捜部長の大坪弘道氏と元特捜部副部長の佐賀元明氏が上告を断念。事件から3年以上たった10

月8日、両氏の有罪判決が確定した。

大坪氏は9月25日の高裁判決直後は上告する意思を示していたが、10月8日に記者会見し、

「社会には通らない真実、時に受け入れねばならぬ不

2013.10.25

条理がある。名誉ある撤退」と無念の思いを明かした。大坪氏は現在、複数の会社の顧問として活動しているが、有罪が確定したことで、法曹界では仕事ができなくなる。

今後については、「法律以外で他の勉強を重ねたい。そして本を書きたいなどとも思う」と話している。

大坪氏は2010年10月に逮捕され、保釈後に著書を出版したが、本誌にはこ

う話していた。

「弁護士に勧められ、拘留所で書いた日記をもとに突貫工事で書いたもの。いずれもつと、検察内部のことをきちんと書いてみたい」有罪は確定したが、一部

には大坪氏を擁護する声もある。かつて大坪氏の上司だった元検事は、

「失敗もあったが、検察を救ったのも事実だ。三井事件は大きな功績だろう」と語る。

三井事件とは、02年に大阪高検公安部長(当時)だった三井環氏が検察庁の裏金問題を実名告発しようとした直前に、「でっちあげ」のような詐欺容疑などで逮捕された事件だ。

大坪氏は、贈賄側の被告の事情聴取を担当した。それが柱となり、三井氏の実

刑判決が確定した。だが、贈賄側の被告の証言には不自然な点も多く、検察側の「取引」が疑われた。検察のすべてを知る大坪氏は弁護団の一人にこう語っていたという。

「検察の裏についてぶちまけたいことがある。本気で三井事件の話を書けば、いまでも2、3人のクビが飛ぶ」

大坪氏は先の記者会見でこうも話している。

「記憶のあるうちに、外には出せないこと、捜査過程のことは記録しといたほうがいいかなと思う。公表するかしんないかは別に、記憶があるうちに書いておきたい」

検察の「ウミ」は、一刻も早く公表してほしいものである。



組織の「裏の裏」まで知る大坪氏に検察幹部も戦々恐々？

消費増税 ここが「買い時」、不動産、車、家電、老人ホーム、保険…

週刊朝日

スニーカー
から
娘を守る

10・25
370円
佐藤浩市

「クビ切り特区」
本当の狙い

先生力で
高校を選ぶ

ブルーベリー、ポルチーニ…

欧州食品も 放射能汚染

